

連合群馬・愛のカンパ浄財を寄贈

1月17日、前橋テルサにおいて、12地協が街頭や駅頭で県民に呼び掛け、取り組んだ「連合群馬・愛のカンパ」への募金や組合員からの浄財を基に、県内で活動しているNPO団体やボランティア団体へ浄財を寄贈しました。

寄贈式には、連合群馬・愛のカンパの助成5団体から代表者が出席し、北川会長より「組合員や県民から寄せられた浄財です。大切にご活用いただきたい」と挨拶があり、寄贈を行いました。

各団体の代表者からは、「活動の励みになり、大変有り難く、貴重な浄財を大切に使用させていただきます」とのお礼の言葉がありました。たくさんの組合員や県民のご協力に感謝いたします。



左から群馬いのちの電話、NPOかてて、利根沼田ボランティア協議会、北川会長、太田ボランティア連合会、かなやま青年寮の代表者の皆さん

産別・地協代表者会議を開催 ～「12期後半期の活動計画等を確認」～

1月17日、前橋テルサにおいて、産別・地協代表、連合群馬四役の合計49人が参加し、産別・地協代表者会議を開催しました。

後半期の具体的な活動計画や各種選挙の対応について共有をはかるとともに、フェスティバル拡大実行委員会も開催しました。

特に推薦決定し、取り組みを進めている前橋市長選について、新たな取り組みとして労使一体となり、会社と組合を共同で訪問することを確認し、参加者からは是非実行に移し必勝に向けて進めたいとの発言がありました。



積極的に意見交換



執行部からの提起

連合タウンミーティング 「働くことを軸とする安心社会」に向けて

1月24日、メルパルクホール（東京）において連合タウンミーティング「働くことを軸とする安心社会に向けて」が1500人の規模で開催され、連合群馬から産別・地協、やくみつる氏（左）・勝間和代氏（右）四役の30名が参加しました。



連合が提起したわが国が目指すべき社会像に対する意見提起や、労働運動に何を求めるかをテーマに、やくみつる氏（漫画家）、勝間和代氏（経済評論家）、藤本裕子氏（「お母さん業界新聞」編集長）、川崎美香氏（元派遣社員・現在契約社員）と古賀連合会長がパネルディスカッションを行いました。

連合群馬ユニオン第13回定期大会を開催



木暮執行委員長

2月4日、ホテルメトロポリタン高崎において、加盟組合役員、執行部など29名が参加し、ユニオン定期大会を開催しました。

大会の前段には学習会を開催し、労働組合の基礎知識や連合群馬の活動について全体で共有しました。

大会の冒頭、木暮執行委員長より、「最近では経営者や管理者が労働者を軽んじているが、景気低迷の中で心の余裕をなくしているのではないかと。労働組合として経営分析能力をつけ、10万人組織の人脈を使った提案型の交渉構築や、労働局・労基署との連携をより強化し、水際での労使紛争の解決や予防保全をはかることが果たすべき役割ではないか」との挨拶がありました。

その後、活動報告および会計報告が確認され、加盟

組合の労働条件維持や改善をめざし、産別との意見交換を積極的に行い、産別移行を意識した取り組みなどの2012年度活動方針および新役員体制を確認しました。

大会終了後には加盟組合の紹介と近況報告を行い、ユニオンに集う仲間の交流を深めました。



新年度活動方針が確認された